

米国の自動車事情

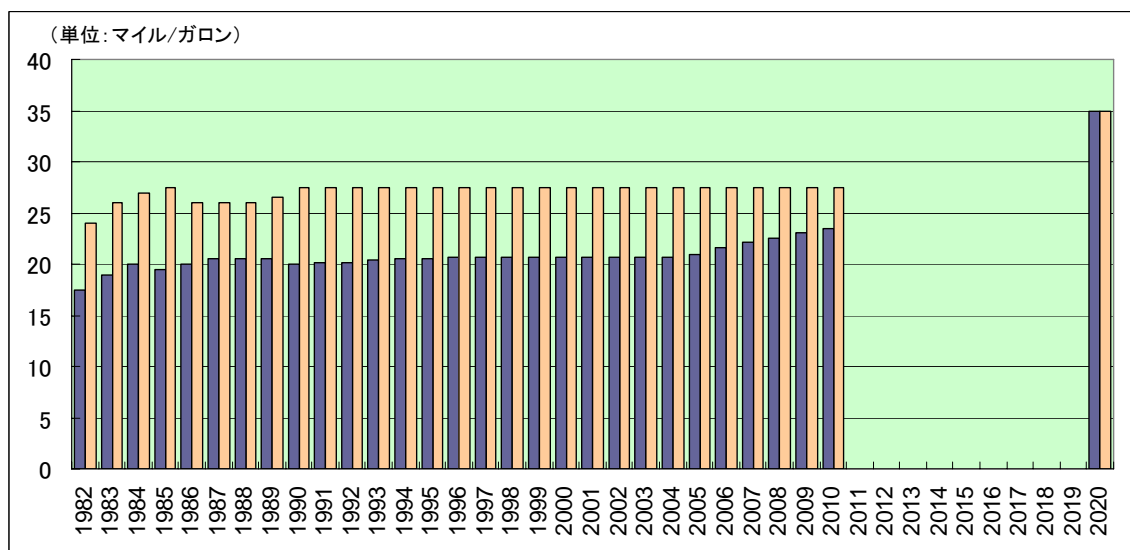


米国は自動車の燃費向上に再び本腰

今の燃費基準は原油がバレル 20ドルに対応

昨年の 12 月 19 日に成立しました 2007 年エネルギー自給・安全保障法は、自動車(乗用車および小型トラック)の企業平均燃費(CAFE)について、2020 年には少なくとも 1 ガロン当たり平均 35 マイル(1 リットルあたり 14.9 キロメートル)になるように、運輸省長官が 2011 年以降の年毎の CAFE を定めるとしています。

集められる範囲の過去の実績および既に決定されている 2010 年型車までの CAFE と、2020 年型車の目標をひとつのグラフにしました。



企業平均燃費

ベージュ色は乗用車(passenger car)、薄青色は小型トラック(light truck)

ファクティバ(ダウ・ジョーンズ社が提供する有料データベースサービス)を利用して昔の報道を徹底的に追いかけて情報を収集しました。

乗用車の CAFE は、1985 年型車で 1 ガロンあたり 27.5 マイル(1 リットルあたり 11.7 キロメートル)が実現されました。

しかし、1986 年型車から 1989 年型車まで基準が緩和され、1990 年型車になって再び 1 ガロンあたり 27.5 マイルに戻されました。

スポーツタイプ多目的車(SUV)、ミニバンなどを含めた小型トラックの CAFE は、1982 年型車の 1 ガロンあたり 17.5 マイル(1 リットルあたり 7.4 キロメートル)から順次引き上げられ、2008 年型車は 22.5 マイル(1 リットルあたり 9.4 キロメートル)になっています。

2020 年以降は、乗用車と小型トラックの区別がなくなります。

達成できないと

合衆国法典第 49 編 32912 条に基づき、自動車会社は燃費基準を 1 ガロンあたり 0.1 マイル下回る毎に車両 1 台につき 5 ドルの罰金(民事罰)を台数分支払わなければなりません。

ドイツの自動車会社 Daimler は、「米国に輸入した 2006 年型の乗用車が CAFE を達成できなかったため、自動車メーカーとしては過去最大の 3000 万ドルの罰金を 2007 年に支払い」(2008 年 1 月 3 日、The New York Times)ました。

Daimler は、2007 年 10 月に北米部門(現在の Chrysler)を米国の投資会社に売却し、その直後に社名を DaimlerChrysler から現在のものに変えました。

DaimlerChrysler は、1998 年 11 月に Daimler-Benz と Chrysler が合併してできた会社です。

欧州の自動車会社は、この罰金をコストの一部と割り切っているようですが、米国の自動車会社にとっては耐えられない不名誉なことです。

過去に罰金を支払ったのは、「BMW、Porsche および Ferrari など高級車を輸入販売する会社であって、米国および日本の自動車会社は経験していない」(2007 年 12 月 6 日、Environment & Energy Daily)そうです。

1973 年の

第 1 次石油危機が契機となって 1975 年にエネルギー政策及び節約法が成立し、CAFE による規制が導入されました。

1974 年および 1975 年は、米国の自動車会社の乗用車の販売は不振だったそうですが、1976

(Web 公開版)「世界のエネルギーの話題」(2008 年 1 月 15 日)

年になると再び売れるようになりました。

小型車ではなく燃費の悪い中・大型車に人気があったそうです。

1983～1985 年には

燃費の良くない乗用車の販売が好調な結果、そのままでは General Motors および Ford Motor は CAFE の未達成で罰金が科せられる事態になりました。

Reagan 政権はこの 2 社を救済しました。

1985 年型車で 1 ガロンあたり 27.5 マイルに達した乗用車の CAFE を後戻りさせました。

さらに、前後 3 年間有効なクレジット(CAFE を上回る成果を挙げた年の余剰分を未達成の年に回す)も設定されて、2 社は罰金を回避できました。

CAFE をクリアするために積極的に投資していた Chrysler は「正直者が...」という結果に強い不満を残しました。

1989 年に Bush 政権に代わると、1990 年型車の CAFE は「業界の圧力を排して 1 ガロンあたり 27.5 マイルに戻され」(1989 年 5 月 18 日、The Wall Street Journal)ました。

その頃の原油価格ですが、1985 年はバレルあたり 30 ドル前後で、その後 1986 年から 10 年間以上、バレルあたり 20 ドル前後が続きました。燃費を気にしない「贅沢な」時代でした。

ひとこと

「厳しい自動車ガソリン燃費基準とエタノールの増産を要求するエネルギー法が新たに制定された結果、米国の製油所で生産するガソリンの量は 10 年以内に現在の生産量より少なくなるかもしれない。」(2008 年 1 月 7 日、Houston Chronicle)

これは米国石油化学・石油精製業者協会のコメントです。

計画初期の段階にあるプロジェクトは先送りまたは中止されることもあり得るとのことです。

(YY)

(Web 公開版)「世界のエネルギーの話題」(2008 年 1 月 15 日)

本レポートは、世界の 2,100 以上の新聞、3,700 以上の業界誌、500 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)